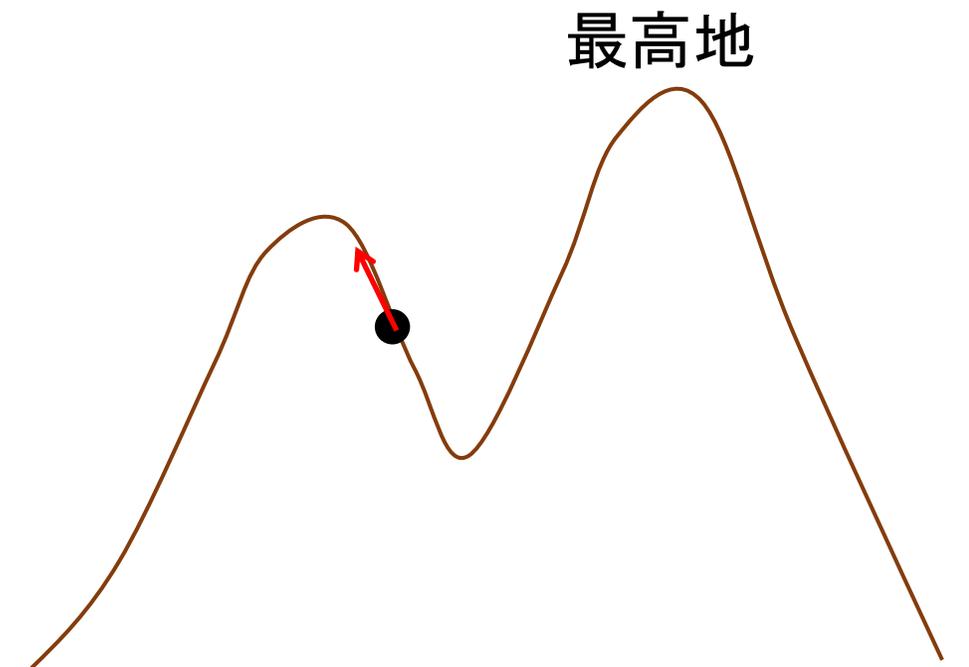


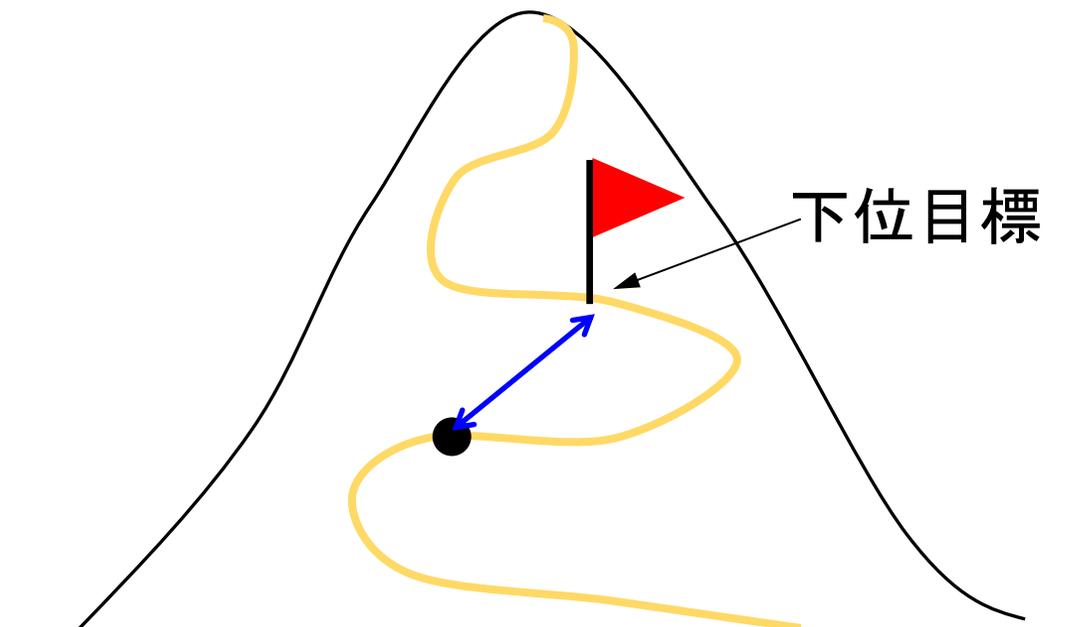
# 課題解決手法

## 山登り法



とりあえず最大傾斜を登る  
[欠点]最高地に登れない可能性あり

## 手段-目標分析



下位目標と現在位置との差を小さく  
するように進む

→ 推論

# 推論

## 演繹法

前提となる事柄をもとに、そこから**確実な結論**を導き出す方法です。

【前提1】「舞姫」と「高瀬舟」の著者は同一人物

【前提2】「舞姫」の著者は森鷗外

【結論】「高瀬舟」の著者は森鷗外

## 定言三段論法

【大前提】全ての学生は学生証を持っている

【小前提】Aさんは学生である

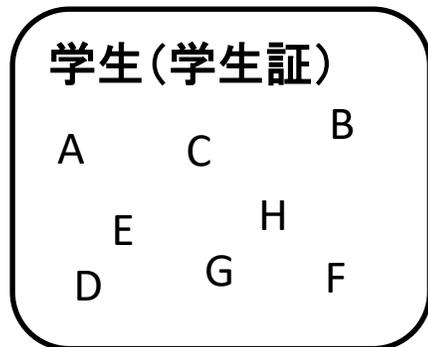
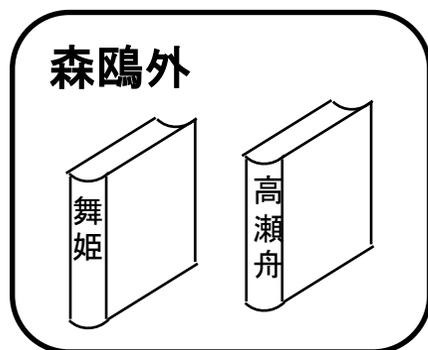
【結論】Aさんは学生証を持っている

## 仮言三段論法

【前提1】もしAさんなら渋谷駅を利用する

【前提2】渋谷駅を利用していれば、ハチ公を見たことがある

【結論】Aさんはハチ公を見たことがある



## 帰納法

帰納法は、多くの事実から類似点をまとめて結論を出す方法です。演繹法と違って、**結論を導くための想像力**が必要になる。

【観察事項1】長野県の平均寿命は日本一

【観察事項2】長野県は日本で最も野菜の摂取量が多い

【観察事項2】長野県には「健康長寿課」がある

【一般論】長野県民は健康に対する意識が高い

帰納法では、**導き出される答えがひとつとは限りません**。母集団を推定

「長野県に住むと長生きする」という結論になるケースもある。

3つの観察事項から何を想定するかで、大きな差が生まれるのです。

帰納法で結論を出すには、ある程度の知識が必要といえる。

## 帰納推論

【標本1】Sさんは数学が得意なA大学生

【標本2】Uさんは数学が得意なA大学生

【標本3】Gさんは数学が得意なA大学生

【推論】A大学生は数学が得意

サンプリング

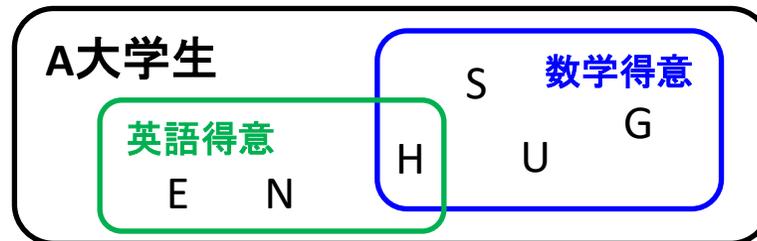
母集団を推定

## 仮説推論

【事実1】あの部屋は社員が一人でも仕事していれば照明が点灯

【事実2】今日は照明が点灯していない

【推論】今日は、社員は一人も仕事をしていない



A大学生全員が数学得意とは言えない

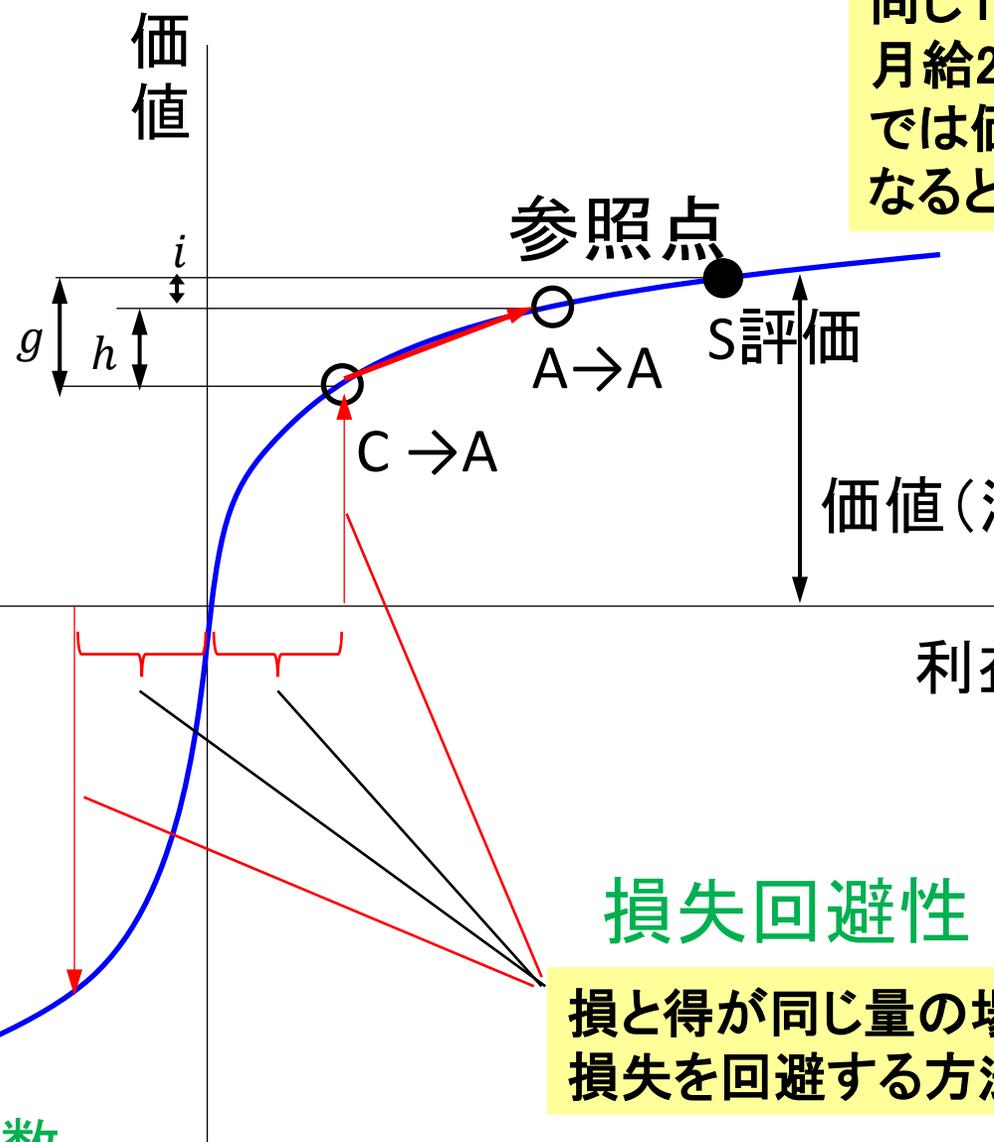
### 参照点依存性

S評価(参照点)を目指していた  
 AはA評価のまま  
 CはC評価からA評価になった

$$\frac{h}{g} > \frac{0}{i}$$

C → A      A → A

同じ1万円でも  
 月給20万の人と100万円の人  
 では価値観が異なる。高額に  
 になると価値が鈍化する



### 損失回避性

損と得が同じ量の場合、  
 損失を回避する方法を採用します

効用関数